

知事記者会見の概要

日 時：令和2年5月12日(火) 14:00～14:40

場 所：記者会見室

出席者：知事、総務部長、秘書課長、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から5件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 「新型コロナ克服・創造山形県民会議（仮称）」の設立について
- (2) 「山形県新型コロナ対策応援金」の募集開始について
- (3) 新型コロナウイルス関連事業継続相談窓口の設置について
- (4) 山形県総合文化芸術館（やまぎん県民ホール）の開館について
- (5) 県民県内お出かけキャンペーン及び県内泊まって応援キャンペーンの実施について

代表質問

- (1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

フリー質問

- (1) 新型コロナウイルス感染症への県の対応について
- (2) 発表事項に関連して

<幹事社：読売・日経・YTS>

☆報告事項

知事

風薫る良い季節となりました。山形県では、今日もですね、新型コロナウイルス感染症の確認がゼロでございました。これで本日まで8日間にわたって新型コロナの感染者が確認されなかったということになります。これは一つのやはり、節目になるのかなというふうに思っております。ここまで来れましたのもひとえに県民の皆様が外出の自粛といった感染防止対策にしっかりと取り組んでくださった、その賜物であり、その成果であるというふうに捉えているところです。まさに県民の皆様と一緒に頑張って新型コロナウイルス感染症の第一波をなんとか乗り切ったという思いでございます。本当にこれまでのご尽力、ご協力に対しまして心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

ですがですね、全国的に見ますと、まだ新型コロナウイルス感染症は終息したわけではございませんので、これからまたいつ何時第二波が来るかもしれないということでもあります。やはり気を緩めることなく、新しい生活様式、そういったものを身に付けていただいて、当面の間また皆さんと一緒に、新型コロナウイルス対策を続けていければというふうに思っております。

ただですね、県内の経済の状況を見てみますと、本当にこれまで大変な自粛でありますとか、さまざまな状況で新型コロナウイルス感染症の、その影響を大変大きく受けておりました、深刻な状況になっているというふうに捉えております。これからは、新型コロナウイルスから県民の皆様の命と健康を守るという防止対策ですね、それとそれから経済活動、これを両立させていくことが重要だというふうに考えております。

そのためにですね、そのためにも県民の皆様には、新しい生活様式といったことをぜひ目指していただきたいというふうに思っております。これまでもご協力いただいたわけがありますけれども、丁寧な手洗い、そしてマスクの着用、そして「3つの密」を避けるということ。人と人との距離をしっかりと確保していただく、そういったことでもありますので、ぜひ当面の間ですね、新型コロナウイルス感染症が終息するまでには長丁場ということも見込まれておりますので、また、心を一つにしてしっかりと一緒になって取り組んでいただければと思っております。

本当にこれからはですね。それで、事業者の皆様でございますけれども、感染防止対策をしっかりと講じた上で事業活動の再開をお願いいたします。特に、「3つの密」が発生しやすい、そういう業態にありましては、徹底した対策を講じていただきますようお願いいたします。

なお、それぞれの事業者の方がですね、組合でありましたり、そういう単位でもよろしいのですけれども、感染防止策をしっかりと講じているということでご希望がございましたらば、今後、県のホームページなどで紹介させていただくことも考えているところです。

県としましても、市町村や関係機関と連携しながら、県内経済の回復に全力を挙げてまいりますので、県民の皆様、事業者の皆様には、引き続きご協力をよろしくお願いいたし

ます。

それからですね、農作業のことです。ゴールデンウィークが終わりまして、県内では田植えなどの農作業が本格化してきております。

このような中で、農家の方からは新型コロナウイルスへの感染に対する不安の声が寄せられております。県の医師会からも、作業小屋などの屋内で行う農作業もありますので、感染防止の注意喚起が必要ではないかのご提案をいただいたところがございます。そこで、県の危機対策本部におきまして、農家の皆様に注意を促すチラシを作成いたしまして、周知を図っているところです。皆様のお手元にあるかと思いますが、報道関係各社の皆様にも取り上げていただいて、周知方よろしく願いいたします。農家の皆様には、農作業の事故に十分注意して作業を行っていただくとともに、新型コロナウイルスの感染防止にも細心の注意を払っていただきますようよろしくお願いいたします。

では、私からですね、5点発表がございます。

1点目は、「新型コロナ克服・創造山形県民会議（仮称）」です。その開催について申し上げます。新型コロナウイルスの感染拡大により、県民の皆様には不要不急の外出を控えていただくなどのご協力をいただきましたほか、学校の臨時休業や企業活動の縮小・休止などにより、県民生活や産業経済に大きな影響が生じているところです。

このため、新型コロナウイルスの感染防止と産業経済活動を両立させて、長丁場が想定される新型コロナとの闘いを乗り越えていくということが重要であります。そのためには、県はもとより、市町村や県選出国會議員、県議会をはじめ、各界・各層の代表者の皆様の参画のもと、官民の力を結集して、様々な課題を克服し、新たな地域社会を創造していく必要があると考えております。

こうした考えのもと、県では、県民の皆様命と健康を守り、地域経済の活力を取り戻すための取組みについて、幅広い視点で意見交換を行う場として、「新型コロナ克服・創造山形県民会議」仮称でございますが、その会議を、明日5月13日に開催することといたしました。今後、オール山形で心をつなげて、新型コロナを克服してまいりたいと考えているところでございます。

2点目はですね、応援金です。次に、「山形県新型コロナ対策応援金」の募集開始についてお知らせいたします。多くの県民の皆様から、応援金の口座を作り県民からの善意を集めて、医療従事者や中小事業者、従事者、経済的影響を受けている学生などを支援してもらいたいというご意見をたくさん頂戴いたしました。

このため、県では「山形県新型コロナ対策応援金」を募集することといたしまして、「山形銀行」と、「庄内銀行」と、「きらやか銀行」さんの3行に県の口座を開設いたしました。

これはですね、そして、皆様のお手元にあるようですけれども、ゆうちょ銀行とかですね、JAからも振り込むことができるようになっております。明日、5月13日から募集を開始

いたしますので、マスコミの皆様には、多くの県民の方々からの善意が寄せられますよう、周知方よろしく願いいたします。

3点目にまいります。事業継続相談窓口の設置について申し上げます。新型コロナウイルスの影響が長く続いて、県内経済はたいへん厳しい状況にあると思っております。経営者や事業者の皆様は、終息が見えない中で資金繰りや雇用の維持、「新しい生活様式」への対応など、多くの悩みや課題に直面しておられることと思います。

県としましては、事業の継続を応援してまいりたいと考えまして、本日から新型コロナウイルス関連の「事業継続相談窓口」を開設することといたしました。

具体的には、4つの総合支庁の地域産業経済課に「事業継続相談窓口」を設置いたしまして、地域コーディネーターを含めた職員が相談を受け付けます。相談内容に応じて、県企業振興公社の「よろず支援拠点」というのがあるのですけれども、その「よろず支援拠点」のコーディネーター、13名おります。コーディネーターが、事業継続策を経営者や事業者と一緒に考え、助言をいたします。なお、各総合支庁の相談窓口及び「よろず支援拠点」では、5月は土日も相談を受け付けることといたします。

企業や事業者の実情を踏まえたきめ細かな相談対応が必要なことから、総合支庁では、市町村や地域の商工会・商工会議所と連携しながら伴走型の支援を行ってまいります。

県・市町村をはじめとした関係機関の総力を挙げて、県内企業・事業者を応援し、事業継続に必要な施策の速やかな実現に取り組んでまいりますので、事業を継続するかどうかお悩みの方は、ぜひ、もよりの総合支庁窓口までご相談いただきたいと思います。本当に、後継者がいないとかですね、あと見通しがつかないとか、そういった不安もたくさんおありになって廃業を考えておられるような方もいらっしゃるのではないかと考えておりますが、市町村・県・政府と、みんなで応援をしてまいりますので、ぜひ事業継続に向けてまた気を取り直して、私はいただきたいなと思っております。事業継続ということのできる限りの応援をしてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

4点目にまいります。山形県総合文化芸術館、やまぎん県民ホールの開館について申し上げます。

8日の記者会見でも申し上げましたが、これまで開館を延期しておりました山形県総合文化芸術館、やまぎん県民ホールを、明日、5月13日に開館することといたしました。

当日は、午前10時30分から、建物の外で、少人数でのテープカットのみを実施いたします。また、翌14日には山形交響楽団の県内居住者による無観客演奏を実施しまして、建物の魅力と併せて後日、インターネットで配信する予定としております。それから、県民向けに、15日から館内見学を、18日からは施設利用を開始いたします。

本県の新しい文化芸術活動の拠点施設でありますので、感染防止のため一定の制約はございますが、県民の皆様からご利用いただいて、本県の文化芸術のさらなる発展につなげてまいりたいと考えているところです。まずは県内在住の皆様から始めたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

5点目でございます。キャンペーンのお知らせです。5月10日に一部の事業者を除き営業自粛の要請期間が終了しまして、昨日5月11日から感染防止対策の徹底を要請しているところです。今後は、県民の命と健康を守るための感染防止と産業経済活動の両立を目指していくことが重要であります。そのため県民の皆様による県内経済の回復に向けた動きを始めなければならないと考えておりまして、そのきっかけとしていただきたい2つのキャンペーンを開始いたします。

1つ目は観光立ち寄り施設で利用できるクーポンを発行する「県民県内お出かけキャンペーン」であります。2,000円分のクーポンを1,000円で発行するものでして、第1弾として1万2,500枚を5月15日から道の駅などの観光立ち寄り施設で販売いたします。第2弾は1万7,500枚を5月23日から販売いたします。2つ目は県内の旅館、ホテルで利用できる前売りの宿泊クーポンを発行する「県民泊まって応援キャンペーン」であります。これにつきましても5月の15日から応募受付を開始いたします。5,000円の宿泊割引が受けられるクーポンで、3万枚を発行いたします。更にその後になりますけれども、お出かけクーポンと宿泊クーポンのそれぞれ2万枚について、今後県内旅行代理店においてセットで販売してまいります。つまり合計しますとですね、この「県内お出かけキャンペーン」の買い物券は5万枚、そして「県民泊まって応援キャンペーン」の宿泊クーポンも5万枚というのが合計の数字です。この2つのキャンペーンとも、県民を対象としたものであります。新しい生活様式を実践しながら、感染防止対策をとっていただきながら、県民の皆様にはぜひご利用いただきたいというふうに思っております。当面の間、県民の県民による県内周遊で、経済活動を前進させてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。私からは以上です。

☆代表質問

記者

幹事社の読売新聞の八木といいます。よろしくお願ひします。代表質問させていただきます。新型コロナウイルスの感染症拡大防止対策で大きく2点伺います。まず県は4月25日から5月10日にかけて、3密が起きやすい業態などを対象に営業の自粛を要請しました。これは終わりましたけれども、この取組みの成果や課題について教えてください。あともう1つですが、同じ期間中に県域を越えて県内に来る人を対象にした検温やあと啓発活動の本格実施が行われました。こちらの成果についてもどう受け止めていらっしゃるのでしょうか。今後も県域を越えて来県する人たちに対して、何らかの働きかけを行う考えはあるのでしょうか。知事のご意見を伺えればと思います。

知事

はい、わかりました。ではお答え申し上げます。まず4月25日から5月10日までの企業等に対する営業自粛・休業等の要請をいたしましたので、それについて申し上げます。

「3つの密」、密閉、密集、密接が起きやすい業態や、県外からの人の移動や県民の県内外の往来に係る業態の施設を対象に、4月25日から5月10日までの期間、営業自粛・休業等の要請をいたしました。それぞれの関係団体を通じた通知のほか、県のホームページや市町村からもご協力をいただいていたところでもあります。その結果、インターネットカフェなど一部の事業者からご協力をいただけなかったというのがありまして、それは残念なことでありますが、全体としましては概ね営業自粛・休業の要請にご協力いただいたと受け止めております。こうした事業者のご協力のおかげで、最近新規感染者が確認されない日が続いているところです。事業者の方々の営業自粛・休業への要請のご協力に對しまして感謝申し上げます。

一方、産業経済面では大きな影響が生じております。特に飲食店や宿泊施設、観光立ち寄り施設などで売上げが大幅に減少するなどの深刻な影響が生じており、地域経済が危機的状態になっております。このため県としましては、営業自粛にご協力いただいた事業者に対する緊急経営改善支援金を、昨日11日から申請受付を行っております。県では申請受付後1週間以内には交付できるよう準備を整えておりますので、速やかな申請をお願いいたします。また先ほど申し上げました「県民県内お出かけキャンペーン」など県民の皆様による観光分野における消費喚起を実施しますとともに、商店街の販売促進キャンペーンなど地域の実情に合わせた消費喚起策の速やかな実施を図ってまいります。

次に県域を越えて県内へ移動する方々への啓発活動と任意での検温の本格実施をいたしましたので、それについて申し上げます。県では全国に先駆けまして、新型コロナウイルス感染症から県民の皆様のため、県域を越えて県内へ移動する方々を対象に、道路で3か所、鉄道で2か所、空港でも2か所、合計県内7か所におきまして、4月25日から5月10日までの16日間、往来の自粛や感染防止を呼びかけるための啓発活動と任意の検温を実施してまいりました。道路と鉄道、空港を合わせた16日間の実施状況ではありますが、対象となった方は6,209人で、啓発チラシを受け取っていただいた方が5,466人。検温につきましては、鉄道と空港の定点でのサーモグラフィーによる検温も含めご協力いただいた方が5,861人と、多くの方々から非常に協力的に対応していただきまして、事故やトラブルもなく実施することができました。

人々の往来が盛んになるゴールデンウィーク期間中の取組みでありましたが、実施のアナウンス効果もありまして、人々の往来は例年よりも減少、本当に極めて減少した、非常に減少したということがありました。期間を通じて県域を越えた移動は抑制的となりました。県域での活動の成果が出ているものと考えております。今回の取組みの課題をあげますと、通勤目的で日常的に利用されている方もいらっしゃいましたので、そういった方々には重ねて啓発してしまっ「昨日もらいました」というようなことですね、そんなケースもあったということをお聞きしております。なお県域を越えた移動につきましては、各県において引き続き自粛を要請することとなっております。東北6県と新潟県との共同メッセージということも今まだ続いておりますし、今日午前中に全国知事会の会議もあつたのです

けれど、そこでもかなりの県からですね、県域をまたいだ、県境を越えた移動はこれからも抑制したほうがいいというご意見が出されました。全国を対象とした緊急事態宣言が継続されたことも踏まえまして、明日ですね、5月13日になりますけれども、山形蔵王パークキングと山形駅と庄内空港、この3か所に限定して、道路も駅も空港も1か所ずつということ限定して、1回のみ啓発活動と任意での検温を実施することとしております。というようなことでございます。

記者

ありがとうございました。

☆フリー質問

記者

河北新報の岩田です。今お話しになった緊急事態宣言の関係で、報道等で早ければ14日にもですね、山形県を含む多くの県が宣言解除になるというようにお話も伝わってきておりますけれども、知事としてはその解除後もですね、解除された県、または特定警戒都道府県間の県域を越えた往来なんかは自粛をお願いしていくようなお考えなのでしょうか。

知事

県民の皆さんに対してですか。

記者

ええ。

知事

はい、分かりました。政府では今月14日にも特定警戒都道府県以外の34県について緊急事態宣言を一斉に解除する方向で調整していると、報道で承知をしております。本県では本日も新たな感染者が確認されなかったということで、8日連続で新規感染者ゼロとなったところです。これまでの県民の皆様への感染防止に対する取組みが実を結んだものであり、改めて県民の皆様に感謝を申し上げます。このように8日連続で新規感染者ゼロが続いている状況や、入院者数が減少していて医療体制も確保されているという状況を踏まえまして、本県が解除されることは妥当な方向ではないかと考えております。しかしながらですね、全国的にはまだ新型コロナウイルス感染症が終息しているわけではございませんので、やはり引き続き感染防止に向けた取組みをしっかりと講じていただく必要があると考えております。今後ともですね、当面の間、県域を越えた移動については自粛の協力をお願いしていくということを考えております。

記者

分かりました。それで全国知事会としては、この緊急提言を見ますと、今おっしゃったような解除された都道府県間の往来の自粛というのも国のほうに発出するように求めているということなのですかね。

知事

はい、何人かの知事さんのですね、ご意見をちょっと私読ませていただいたのですが、やはりしばらくの間は県境を越えた、県域を越えた移動は、全国の都道府県で広域連携して取り組んでいく必要があるというようなことをおっしゃっていたというふうに伺っておりますので、どういうふうに知事会としておまとめになるのかはまだちょっと私も聞いていないところですが、そういった方向になるのかなと思っております。

記者

分かりました。ありがとうございます。

知事

はい。

記者

あと、明日、設立総会開催予定の、以前からおっしゃっていたオール山形の会議だと思っておりますけれども、これは、県選出の国会議員というのは、皆さん参加されるということなんでしょうか。

知事

そうですね、今のところ私が聞いているところでは、芳賀参議院議員が参議院の中で決算委員会があるというようなことで、欠席というようなことを聞いているところがございます。ほかの方々もウェブで出席していただけないかというふうに思っております。

記者

以前、戦略会議が立ち上がったあとにですね、舟山参議院議員と芳賀参議院議員から、戦略会議を解散してからですね、こちらの会議のほうには参加したいというような趣旨のファックスがありましたけども、そのあたりでは、その後何かやり取りされて、解散はしていないわけですが、そのあたりで何かやり取りされたんでしょうか。

知事

そうですね、その戦略会議のほうは、やはり全国の緊急事態宣言が延長されたということもありますので、その間はですね、解散とかなんとかということにはならないと思っております。

このオール山形のほうはですね、ちょうど時期的にも、県内の感染者数がゼロということが8日も続いて、本日で8日です。そういった状況にあって、感染防止対策と経済活動、両立させていくという新たな局面に入りますので、そういった時に県内の各界、各層からの様々なご意見を頂戴して、市町村や県、政府といったその行政でどういうふうに反映していけるのかというようなこともとても大事な切り口になってくるかと思っておりますので、まったく別物の会議だというふうに思っております。

そういった内容でありますので、特にそのあと2つの会議がどうというようなことは、私はちょっと聞いていないところです。

記者

ありがとうございます。

知事

はい。

記者

毎日新聞の的野です。先ほど、8日連続で新規感染者がゼロで、第2弾に向けて予防していかねばいけないというお話ではあったんですが、現状その8日、新規の感染者がゼロということで、県内での感染というのは収束になっているかどうか、その辺をちょっと、所感をお伺いしたいのですけれど。

知事

そうですね、はい。実は医療専門家会議の時にですね、感染者数がゼロというのが1週間続くということのその意味について、ちょっとお聞きをしてみたんですね。そうしましたら、やはりその潜伏期間というものもございますので、やっぱり1週間ゼロが続くということは、大変一つの大きな目安ではないかというようなことをお聞きしましたので、専門家の見解ということで、私もなるほどなと腑に落ちたところでございます。

そんなようなことでありますので、なんとか県民の皆様と一緒に第一波は乗り切った感があるのかなというふうに思っております。

ただ、もちろん気を緩めてはならないというふうにも思っております。やはり、ゴールデンウィークの間にも県域を跨いで移動していた方はいらっしゃいましたので、それがどういうふうになってくるかも本当に予断を許さないと言えますか、県としましては、しっ

かりと気を緩めず、これからも取り組んでいく必要があるというふうにも考えております。

記者

ありがとうございます。すいません、もう1点で、口座のほうができたと思うんですけど、対策応援金のほうなんですけれど、こちらは知事自身も入金するようなお考えというのはございますか。

知事

したいんですけれども、政治家って寄付しちゃいけないって、法律違反になってしまうんですね。ですから、できる限り県内経済の回復のために買物をしたりですね、そんなことをしようかなと思っております。

記者

東日本大震災の時と違って、全国的に皆さんが大変な環境にある今回の事案だと思うんですけど、それでもこういった募金のような、なんて言うんですか、入金を皆さんに呼びかける活動をされるというのは、やはり、そういった学生さんの困難な状況だとか、そういうのを伺いして踏み切った次第なんでしょうか。

知事

そうですね、そもそもはですね、経済界の方々から、複数の方々からですね、あるいは労働界の方々からも、政府からの全国一律、国民1人1人に10万円の給付があるということになった時に、ぜひ本当に深刻な状況にある方々に使っていただきたいので、そういった応援金というようなものを作ってはいかかかというようなご提案をいただいたのが始めてございます。そういった状況でありますので、そういった善意というものをやはり広く募って、本当に困っている方々のところに集中してですね、応援、支援、サポートできるようなことをやっていければと思っております。

記者

どこか他県の事例を参考にされたとか、そういうことではなく、独自でお考えになられて立ち上げたものですか。

知事

他県の事例も承知しておりました。そして自分自身の思いもありましたし、そのうちに、県内からもそういった声が出てきてですね、提案をいただいたということが重なりましたので、これはしっかりとその取組みをですね、始めたいというようなことでこのようになったところでございます。

記者

わかりました。ありがとうございます。すいません、最後に1点で、最近の会見等で知事のマスクが、さくらんぼ柄のいくつかあるなどというのは認識しておるんですけども、今、さまざまそういった県産品のイベント等が自粛されている中、そういった県産品のさくらんぼのマスクを着けることというのは、こういったPRと言いますか、そういうものにつながるとお考えなのか、どのような意味で着けていらっしゃるかというのを一言いただけたらと思います。

知事

そうですね、実はマスクを着けて記者会見したり、会議をしたりということをやっておりましたら、「愛のマスク運動」を始めました時にですね、県内の女性の方々から、本当にいろいろな広範囲の、庄内の鶴岡でありましたり、酒田でありましたり、また白鷹でありましたり、山形市でありましたり、寒河江とか、本当に広範囲なところで、米沢もあります。本当にしょっちゅうマスクを送っていただいております、「このマスクを着けてがんばれ」とかですね、あと、さくらんぼに関係している人からは「さくらんぼをぜひ着けてくれ」というようなことで、おもしろいところでは、「宮城県の知事に負けてほしくないから」なんて言って、さくらんぼの刺繍をしたのを送ってくださった方もいて、いろんな思いがこもったたくさんさんのマスクをいただいたところです。

せっかくだいたマスクですので、これからいろいろな機会に皆さんからいただいたこの愛のマスクを着けさせていただきたいというふうに思います。

記者

ありがとうございます。

知事

はい。

記者

庄内日報の松田です。今もちょっとお話していたのと、あと、先ほどの全国知事会でも多少話しておりましたが、アルバイトの口がなくなった学生への支援についてなんです。

県内での大学でちょっと耳にした話なんですけど、入学したての1年生、彼らはアルバイトをしようにも最初からアルバイトをしていない、だから今回の学生支援の対象外ではないかという声が聞こえてきたんですね。

それで彼らは、1年生は大学が始まる前に休校になって、まだキャンパスにも行っていない、アルバイトを探そうにもそんな口はない、学生の支援からも外れるんじゃないかと、非常に不安の声が高まっております、このままではもう大学を辞めちゃうなんていう

話までしてると言います。

そういった1年生、入ったばかりの1年生にもこちらの応援金の、対象には入るのでしょうか。

知事

はい。そうですね、私も今記者さんがおっしゃったようにですね、アルバイトの収入が減った学生さんというのは、今国会でもいろいろ議論されていて、そういう中には含まれていると承知をしております、ただ、新入生はですね、まだアルバイトを始めたわけではないので、収入が増えたとか減ったとかいうことに入らないわけですから、そこから漏れてしまうのではないかという心配を私もしております。

それで、大学とも連携しながらということになりますけれども、この応援金がですね、まだ集まってはいないわけでありまして、そういった学生さんもやはり含んでの支援ということができればいいなというふうに考えております。

記者

ありがとうございます。

記者

日本経済新聞の浅山です。この応援金なんですが、今の段階では使い道もかなり広いふうになってますけど、詳細はまだこれから決めるということなんでしょうか。

知事

そうですね。わかっているのは医療従事者の方々への支援と、それから深刻な状況にある事業者の皆さんとかですね、あるいは失業した方とかいうようなのはちょっとまだ早計かもしれませんけれども、労働界の方も、本当に困っている人に対してというようなご意見もいただいております。

記者

それは、いつ頃までにはそういうのを支払いたい、支払いの期限ですね、今月内には。

知事

支払って、応援金ですか。

記者

応援金です。はい。集まったお金をいつまでに出すのか。

知事

応援金の期限、いつまででしたか。

記者

まだその辺も決まってないんですか。

知事

ええ、明日から始めるんですけども、決まっていたかもしれませんが、ちょっと聞いてみたいと思います。

防災くらし安心部

防災くらし安心部の林です。ただいまその応援金の支払いということですね、ご質問ありましたけども、そちらにつきましては、今後ですね、歳出予算についてそれぞれ検討してですね、決めてまいりたいと思っておりますので、議会等の関係で、手続きを進めていくということになります。

記者

そうすると、やはり数か月単位先になるというようなイメージなんですか。

防災くらし安心部

そういった部分についてですね、まずはできるだけ早くですね、そういう手続きを済ませて、支給できるようにというふうに考えてございます。

記者

今の段階では、いくらぐらい集まらないかなみたいな、期待みたいなものも知事としてはお持ちではないんですかね。目標金額的なものですね。

知事

目標までは定めておりませんが、できるだけ広くお願いして、できるだけ多く集まってくれれば、たくさんの方々に支援できると思いますので、多く集まることを期待しております。善意が多く寄せられることを期待したいと思っています。はい。